



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2026年9月1日

9月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

44日にわたる夏休みが終わりました。学校という場所は子どもたちがいないとこんなにも暗くつまらない場所なのだと実感します。今年の夏休みは、大きな工事もなかったので、よりそんなことを感じてしまうのでしょうか。でも、子どもたちがやってくると、息を吹き返したように明るく私たちも元気になれる場所に戻ります。今日から、前期後半が始まりました。前期のまとめに向けて今一度、決まった時間より少し早めに起きる、朝ご飯をしっかり食べる、次の日の準備をきちんとする、早めに床に入るなど、まずは生活リズムを整えることを大切にしていきたいですね。

夏休みに黒川伊保子さんの「子育てのトリセツ」という本を読みました。子育てを終えた私にも、刺さるお話が多く「もっとこうすればよかった…」と思わされる内容がたくさんありました。子育て真っ最中の皆さんにもぜひ知っていただきたい印象的なフレーズを紹介します。

「（思春期は）まだ家族に守られているにもかかわらず、脳は「一人ぼっちで世界に立ち向かう」ような気になっている。このとき、親に愛された自負は、自尊心の核となる。これがあれば、人は、そう簡単に自分を貶めるような行為には走らない。子どもたちの脳に、美しい真珠のような自尊心の核をあげよう。この世のすべてが彼・彼女を否定しても、絶対に消えない存在意義を。「あなたが生まれてきて、本当によかった。あなたに出会えたことが、人生で最も尊く、愛おしいこと」と。

「成長期の脳に愛を伝えることでその脳をダメにすることはありえない。愛もまた学習しなければ作られない神経回路構造の一つである。聞いたことのないことばがにわかにはしゃべれないように、愛されたことがなければ愛することはできない。愛された記憶は、愛する力の源になる。

もちろんこのことは、子どもの言いなりになれとか、親が先回りして困らないようにしろという意味ではありません。子どもが自分で決めて、自分でしたことが間違ったり失敗したりすることに寄り添うこと。そして、親は、大切な我が子が自分で乗り越えていく方法を一緒に考え、心の底から応援していくことを「きちんと言葉で表現しましょう」ということなのだと理解しました。

私の子育ての最大の反省はここです。恥ずかしくてきちんと言葉にすることができなかったのです。それだけでなく、口に出さなくてもきっと通じるからと高をくくっていたのです。

大人は毎日忙しいです。朝、目覚めてから全てを終えて床に入るまでに、自分はもちろんだれだけ子どもやパートナーに「早く」「速く」「急いで」…と声をかけてしまっているでしょう。そして、そのたびに、どれだけ「あなたが大切だ」と直接、間接に伝えることを忘れてしまっているでしょう。「愛されたことがなければ愛することはできない。」筆者の言葉が重く感じます。みなさんはそんなことのないよう、しっかり言葉で伝えてあげてくださいね。

夏休み明けの子どもたちは、不安を抱え込んでしまうことがあります。ご心配なことがありましたら、遠慮なく担任までご相談ください。一緒に考えてまいりましょう。